

笹川記念保健協力財団 地域啓発活動助成

(西暦) 2018 年 1 月 31 日

公益財団法人 笹川記念保健協力財団
会 長 喜 多 悦 子 殿

2017 年度地域啓発活動助成

活 動 報 告 書

標記について、下記の通り活動報告書を添付し提出いたします。

記

活動課題

一般市民や医療者に対してのホスピス緩和ケアの啓発活動

活動団体名： ホスピスタウン清瀬ネットワーク

活動者（助成申請者）名： 堀江 亜紀子

I 活動の目的

当団体が今まで実施してきたアンケート結果を見ると、いまだに「緩和ケアはあきらめの医療」「麻薬を使ったら終わり」という誤解を持っている人が多く、患者は、症状を我慢して、がんの治療だけを行おうとしており、緩和ケア医療を受けず、苦痛の中過ごしている方も多く存在する。また、がん拠点病院などを中心に相談する場所も増えてきているが、在宅を中心とした療養を行っている方には、情報が伝わらないことも多い。

清瀬市は、緩和ケア病棟、緩和ケアチーム、在宅ホスピス、緩和ケア外来などのホスピス緩和ケアに関する選択肢が多数あるが、自治体や市民の認識も低いため、必要な方に対しての啓発活動を目的とする。

- ・ ホスピス緩和ケアについての啓発
- ・ 清瀬市におけるホスピス緩和ケアのサポート体制の認識率向上(緩和ケア病棟、緩和ケアチーム、在宅ホスピス、緩和ケア外来、訪問看護、がんカフェなど)
- ・ 清瀬市におけるホスピス緩和ケア医療機関の包括的ネットワーク構築
- ・ 世界ホスピス緩和ケアデー、日本ホスピス緩和ケア協会のホスピス緩和ケア週間、日本緩和医療学会のオレンジバルーンプロジェクトの一環

II 活動の内容・実施経過

1. パネル展示「ホスピス緩和ケアってなあに？」*ウィッシュツリー

- 1) 2017年8月29日～9月10日 クレアギャラリー(清瀬西友4階)
- 2) 2017年9月4日～10月14日 信愛病院
- 3) 2017年9月4日～10月14日 複十字病院
- 4) 2017年9月4日～10月14日 救世軍清瀬病院
- 5) 2017年9月4日～10月14日 東京病院
- 6) 「清瀬ウィッシュツリー」と題し、各パネル会場で来場者にウィッシュリーフに願いを記載してもらい、ツリーに飾ってもらった。また、願い事の一部を講演会場にてPowerPointで流した。

2. 講演会の実施(講演、コンサート、シンポジウム)

日時 2017年10月14日(土)10～12時

場所 東京病院大会議室

内容 1) 講演「がんと向き合い対話する場所が町にある。～マギーズ東京とは～」

講師: 村上紀美子(医療ジャーナリスト・マギーズ東京事務局メンバー)

2) コンサート: 信愛病院・救世軍清瀬病院の音楽療法士と成松恵介(東京病院 音楽ボランティア)

3) シンポジウム: 「がん患者・家族を支援する取組み、自分の足で自分の人生を歩むために」

3. ホスピス見学ツアー

日時 2017 年 10 月 14 日(土)1 日目 13:00～15:30

2017 年 10 月 21 日(土)2 日目 13:00～15:30

場所 東京病院→救世軍清瀬病院→信愛病院

内容 病棟見学ツアー

4. 認知度アンケート作成、実施

今回、清瀬市のホスピス緩和ケアと当イベントについての認知度アンケートを実施した。近隣や清瀬市と接している市を中心とした病院、居宅介護支援事業所、訪問看護ステーション、学校など 151 か所にアンケートを送付した。

5. ホスピス緩和ケア啓発小冊子の再配布 A5 版 24 ページ

6. 広報活動

特設ホームページの開設、

市報や地域誌への掲載

関係医療機関や在宅支援事業所などへ送付

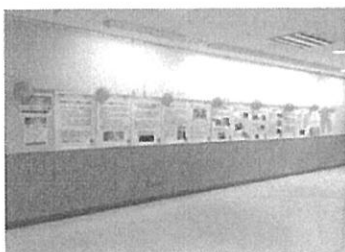
7. 質問・相談対応

アンケート用紙を利用して、必要がある方には質問や相談対応を実施

Ⅲ活動の成果

1. パネル展示「ホスピス緩和ケアってなあに？」*ウィッシュツリー

パネル展示の来場者数は不明だが、ウィッシュツリーには多くのコメントをいただき、多数の方に見ていただくことができた。



①クレアギャラリー



②信愛病院



③複十字病院



④救世軍清瀬病院



⑤東京病院



⑥ウィッシュツリー

2. 講演会の実施(講演、コンサート、シンポジウム)

講演会の参加者数は 73 名であった。

アンケート(回収率 52.1%)の結果から、92%の方が「良かった」という評価であり、74%の人は「ホスピス緩和ケアに関心がある」という来場理由であった。参加者の 61% が一般の方であり、医療関係者や学生の参加も見られた。「一人ではないと…思いました。つらい時は手をさしのべてくれる場所があると。」「病気と向き合い対話できる場所・人のあることが大切だということをあらためて覚えることができました。がんだけでなく、病気で悩む多くの人々との対話・きずなが広げられていくことを期待しています。」といった感想が寄せられた。



講演会の様子



講師：村上紀美子
(医療ジャーナリスト、
マギーズ東京事務局メンバー)



シンポジウム：「がん患者・家族を支援する取組み、自分の足で自分の人生を歩むために」

3. ホスピス見学ツアー

多数の申込をいただき、2 日間で参加者は 102 名、キャンセル待ちが 50 名であった。キャンセル待ちの多くの方はお断りをする形となってしまった。40 歳代 50 歳代の方が参加者の約半数であり、アンケートにて今後も同様のツアーに「参加したい(お勧めしたい)」と回答された方が 91%であった。



4. 認知度アンケートの作成、実施

回収率は 37%であった(n=56)。回答者の職場の所在地は、清瀬市、近隣(東村山市と東久留米市)、その他で約 3 分の 1 ずつであり、職種別では医師・看護師(以下医療者)が 32%、医療ソーシャルワーカー(以下 MSW)が 18%、ケアマネージャー(以下 CM)が 50%であった。MSW の 90%は清瀬市・近隣以外の地域からの回答であった。

清瀬市に3つのホスピス緩和ケア病棟があることを「知っている」「よく知っている」「ある程度知っている」という回答は、どの職種でも9割に近く、特にMSWでは清瀬・近隣以外の職場の回答が多かったのにも関わらず、90%と高い認知度となった。

清瀬市に緩和ケアチームがあることを「知っている」という回答は、医療者は34%、MSWは40%、CMは32%であり、緩和ケア病棟の認知度との間に差があった。

また、清瀬ホスピス緩和ケア週間のイベントについては、「知っている」「よく知っている」「ある程度知っている」という回答が、医療者は39%、MSWは30%、CMは28%に留まった。

ホスピス緩和ケアについてまとめた小冊子を活用したいかという問いについては、「そう思う」「とてもそう思う」「ややそう思う」の回答が、医療者は72%、MSWは70%、CMは89%となり、特にCMからの活用の希望が高かった。

以上より、清瀬市の緩和ケア病棟についての認識は広がっているものの、今後も継続して情報発信と啓発活動を行うことが重要と考えられた。

また、同アンケートでは「がん」「ホスピス」「緩和ケア」のそれぞれに対するイメージを記述式で回答してもらった。「がんに対するイメージ」では、“早期発見すれば治療・治癒できる”という回答が一番多く、次いで“死のイメージがある”“身近、誰でもなる病気”という項目が続いた。“治らない、重い病気”“苦痛”という回答も多かった。医療者では“つきあっていく”という回答が他職種より多く見られた。

「ホスピスに対するイメージ」では、“ゆっくり、穏やか、安らぎ”“自分らしく過ごす”といった回答が多く、特にCMに“終末を迎える場所”という回答が多くみられていた。

「緩和ケアに対するイメージ」では、“心身の苦痛のコントロール”という回答がどの職種でも一番に多く、次いで“自分らしく生きるサポート”という項目が上がっていた。

以上より、がんに対して、死や治らない、苦痛といったイメージは依然強い一方で、早期発見や治療に取り組むことができ、身近でつきあっていく病気であるというイメージがあることも推察された。「ホスピス」「緩和ケア」については言葉からイメージされる内容に差はあるも、どちらからも“自分らしく”という項目があがっており、「ホスピス緩和ケア」のイメージの中で、重要な項目と考えられた。

5.ホスピス緩和ケア啓発小冊子の再配布

2015年に作成した小冊子「ホスピス緩和ケアってなあに？」を増刷し、希望のあった病院や居宅支援事業所などに配布した。30か所から希望があり、計347冊を配布した。清瀬市や近隣の事業所のみでなく東京都内や埼玉県の広い範囲から送付の希望があり、関心の高さが伺えた。

Ⅳ今後の課題

参加者数やアンケートの結果などから、ホスピス緩和ケアへの関心度は高いと思われ、緩和ケア病棟への理解は徐々に広がってきていると感じる。一方で、緩和ケアチームについては一般への認知度が低く、患者が自分らしく生活できる場所を自分で選択できるようになるためには、在宅ホスピス等と共に、今後も連携を取りながら活動を継続していく必要があると考えられる。

Ⅴ活動の成果等 公表予定

緩和医療関連学会でアンケート結果をまとめ、発表を予定。